

# 文章題テスト・小説(1)

月 日  
名 前

★ 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

さくら堂は、町でいちばんの大きな文房具店ぶんぼうぐで、店には消しゴムだけでも何十シユルアイとなく置いてある。色も、形も、ねだんも実にさまざまである。いちばん安いのは十円で、新五年生のチサはそれを買うお金しか持っていなかったが、買ってさっさと帰る気にはなれなかった。

ちようど店は新学期の売り出しで、子供こどもの客でにぎわっていた。みしてみると、高学年の生徒で十円の消しゴムを買う者はほとんどひとりもいなかった。みんな三十円、四十円のを買っていく。今度小学校へ入学する子供でさえ、連れの母親にゴムのにおいのするのを買ってもらったりする。チサはくさ2った。なにさ、一年坊主ぼうずのくせに。一年坊主は安いのを買うべきだわ。そう思うと、ますますその十円のを買うのはいやになる。

ぐずぐずしていると、ドウキユウセイ1の女の子がひとり、ひよっこり店にやってきた。「なに買いに？」

と聞かれて、チサは、うっかり

「消しゴム買いに。」

と正直ウに答えてしまった。

「おらも。」と相手は言って、「どれにしようかな……これにしよう。」

チサは、もしも相手が十円のを選んだら、自分も「付き合うわ。」と言って、同じものを買おうと思っていたのだが、相手を選んだのは四十円の、尻しりに刷毛はけのついた上等のだった。

「チサちゃんは？どれにする？」

「おらはもう、買ったから。」

チサはあわててそう言った。きょうはもう、このまま買わずに帰ろうと思った。二人はさくら堂を出て、とちゆうで別れエをツげた。

チサは歩きながらズボンのポケットに手を入れてみた。さくら堂ではとうとう出しかねた十円玉を、なんとはなしにちよつとにぎって見たかったからである。ところが、十円玉より先に、なにやらおぼえのないものが指先に触ふれた。なんだろう。妙まようなものが入っている。



そう思いながら取り出してみると、それは真新しい消しゴムであった。チサはびっくりして立ち止まった。

これはどうしたことだろう。チサは自分が熱オくなってきたのがわかった。

白くて、やわらかそうなはだをした、いかにも消しゴムらしい消しゴムであった。チサには、なじみのない上等品だったが、それにもかかわらずその消しゴムに見おぼえがあった。ついさっきまで、さくら堂で何度も手にとってみた五十円の消しゴムにちがいがなかった。

5 けれども、(ポケットに／どうして／入って／それが) いたのだろう。もちろん、買ったおぼえはないし、十円玉一つでは買えるわけもなかった。じっさい、十円玉はちゃんとポケットの底に残っていた。そんなら、さくら堂の品物がどうしてポケットに入っていたのか。

チサはあわてて消しゴムを握にぎりしめると、その手をズボンのポケットにかくして、そっとあたりをみまわした。自分が知らず知らずのうちにぬすみをしていたということに、その時初めて気がついたからである。

ぬすみをする気がなかったにしても、金を払はらわずにだまって店のものを持ち出したのだから、ぬすみと同じことをしたことになる。チサは体がふるえてきた。

(三浦哲郎「小人の曲芸」)

1 線ア〜オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア「種」の訓読みは「たね」、「類」の「犬」の部分に「犬」、「女」などしないように。

ア 種類

イ 同級生

ウ しようじき

イ「糸」(いとへん)を正確に書くこと。ウ「直」の音読みは「チョク・ジキ」、訓読みは「ただーちに・なおーす」。

エ 告(げた)

オ あつ(く)

エ「生」の部分に「生」としないこと。音読みは「コク」、広告など。オ 音読みは「ネツ」。

2 線「買ってさっさと帰る気にはなれなかった」とありますが、このときの「チサ」の

気持ちとしてあてはまらないものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア うれしき

イ くやしき

ウ うらやましき

エ はずかしき

十円の消しゴムしか買うことができないくやしきやはずかしきと、高い消しゴムをうらやましく思う気持ちとが、いりまじっている。



3 線2「くさった」とありますが、ここではどのような意味ですか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア あきれてしまった                      イ こっけいな気がした

ウ 気分がめいってしまった      エ とまどってしまった  
思いどおりにいかず、気がめいって元気をなくしてしまうこと。

4 線3「おらはもう、買ったから」とありますが、「チサ」がこのように言った理由として最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア はじめから消しゴムを買うつもりはなかったから。

イ 十円の消しゴムしか買えないことを知られたくなかったから。  
「チサ」のくやしさを  
 はずかしさから出たことばである。

ウ 消しゴムをぬすもうとしていることを知られたくなかったから。

エ 家にもどって四十円もらってもどってくるつもりだったから。

5 線4「妙なもの」とは何ですか。文中からあてはまる部分を八字で書きぬきなさい。

真新しい消しゴム

— 線4の後に説明されている。

(五十円の消しゴム)

6 線5の( )内のことばをならべかえて、意味の通る文にするとき、いろいろな順にならべることができですが、次の[エ]に入る、四番目のことばは一つだけです。

けれども、 [ア] [イ] [ウ] [エ] いたのだろう。

[エ] に入ることばを書きなさい。

入って

「……いたのだろう」につながる  
 ことばは「入って」だけ。あとの  
 三つのことばは、どのような順番  
 にしても意味が変わらない。

7 線6「チサは体がふるえてきた」とありますが、このときのチサの気持ちとして最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア お金もはらわずにほしいものが手に入り、満足に思っている。

イ 自分のしたことにおどろくと同時に、あきれてしまっている。

ウ だれにも見られていなかったことがわかって、ほっとしている。

エ たいへんなことをしてしまったと思い、不安におそわれている。  
 はじめは「びっくりして」、ふしぎに思い、やがて「ぬすみをしていた」ことになるど気づいて、  
 不安にみまわれ、おそろしくなってきたのである。

